

## 骨密度測定のススめ

本邦の骨粗鬆症は 1000 万人以上で、診療を提供されている患者様は推定200 万人くらいです。骨粗鬆症の診断を目的に骨密度測定を受けましょう。



骨密度の測定は診療放射線技師が担当します。

着替える必要はありません。

測定装置のテーブルの高さは約47cmです。どなたも容易に乗降できます。

検査時間は約5分で終了します。

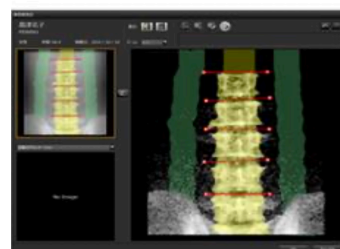
(ひろせ このみ：診療放射線技師)

骨密度測定のスタンダードになっている二重エネルギーX線吸収測定法（Dual-energy X-ray Absorptiometry：DXA）は、エネルギーが異なる2種の엑스線を用いて骨密度を測定する方法です。

当クリニックの骨密度測定装置 SOMIALVISION G4（島津メディカル製）は、DXA法で、測定時のX線照射は約10秒で被ばく量は少なく、高速で高い精度を提供します。腰椎と大腿骨頸部の2部位を測定できます。



骨密度測定装置（DXA法）



腰や背中が痛む



背中や腰が曲がる



身長が縮んでくる



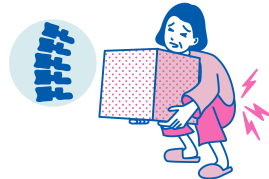
骨粗鬆症は、自覚症状がなく進行していきます。突然、背中や腰が痛くなったり、身長が縮んだことなどで、ようやく気付くことがあります。

つまずいて手や肘をついたり、転倒したり、くしゃみなどのわずかな衝撃くらいで、大腿骨頸部や腰椎や手関節などを骨折することがあります。

太もものつけ根



背骨



手首



骨粗鬆症は、骨密度が低下して骨がもろくなり骨折しやすくなる病気なので自覚症状がない時から骨密度検査を行いましょう。

骨密度測定（DXA法）によって得られる精密な骨密度を用いることで適切な療法（与薬、注射、食事指導、運動療法、日常生活指導...）や経過観察を行うことができます。

隠れ骨粗鬆症の方々は多いといわれています。骨密度測定を実施して的確な診断と適切な治療を受けて健康を維持し増進しましょう。

下記の方は、骨密度測定（DXA）を受けましょう。

身長が縮んだ、背中や腰が痛い、腰が曲がってきた、骨粗鬆症が心配、両親が骨粗鬆症である、ダイエットの経験がある、日光に当たることが少ない、運動不足、食事に好き嫌いがある、カルシウム摂取が少ない

下記の方は、積極的に骨密度測定（DXA）を受けましょう。

高齢者、閉経後の女性、糖尿病、関節リウマチ、副甲状腺機能亢進症、慢性腎臓病、動脈硬化、慢性閉塞性肺疾患

（あんどうくにひこ：整形外科）